

立場

- ・実験の設計
 - ・物理の要求 -> 検出器の設計
 - ・難しい測定、実験のアイデア <-> 検出器の性能
 - ・原理、性能をリミットしているもの -> 動作のイメージ
 - 安定な動作 <-> 限界性能
 - ・相反する要求
- ・運用,解析
 - ・物理の要求 -> 検出器の特徴
 - ・測定の限界、系統誤差
 - 較正
 - ・分解能,応答の直線性

何を?

粒子

- ・ 測定:エネルギー、時間、位置 (運動量は?)
- ・同定:粒子の種類(PID: Particle ID)
 - ・ 波形、エネルギーの行き先(発光、発熱、イオン化…)
 - 測定量のコンビネーション
- ・分類

・荷電粒子

- ・検出器と直接電磁相互作用
- ・中性粒子(y,v,n)
 - ・相互作用、崩壊で荷電粒子へ





- ・物質
- 電磁相互作用
- ・エレクトロニクス



· 検出器:物質 <---電磁相互作用---> 荷電粒子



dE/dX

エネルギー損失 / X: 質量長さ (g/cm²)





高速荷電粒子の電気力線

- ・進行方向に1/γローレンツ収縮
- ・ 電場 = 電気力線密度 -> 強度γ倍、広がり1/γ

 $\beta = 0.08$







無限遠方の電子まで効く?

- ・ 軌道電子の典型的な時間(周回時間)
 - Z=6 (Carbon)
 - $I=6*10eV = h \nu \rightarrow T \sim 2\pi 200eV nm/60eV/c \sim 20nm/c \sim 10^{-7} ns$
- ・にくらべてb=1nmでの撃力の時間スケールは短い
- ・ bの大きいところ20nmくらいだとコンパラ。 -> 撃力っぽくない。原子を励起しに くくなる。

$$\Delta T = \frac{2b}{\gamma v} < \frac{h}{I} \sim \frac{1000 \text{eVnm}}{Ic}$$
$$b_{max} = \frac{h}{2I} v \gamma \sim \frac{600 \text{eVnm}}{I} \gamma$$







注釈: 運動学で許される最敗エネルギー損失からも同じbminを導ける



運動量キック



エネルギー移行 $\Delta E(b) = \frac{\Delta p^2}{2m} = \frac{2mc^2}{\beta^2} r_e^2 \frac{1}{b^2}$ $dE = \int_{b_{min}}^{b_{max}} \Delta E(b) N_e 2\pi b \, db \, dx$ dx db 電子密度 Ne 周長2πb $=4\pi r_e^2 dx N_e \frac{mc^2}{\beta^2} \int_{b_{min}}^{b_{max}} \frac{1}{b} db$ 16

・ そのまま計算すると(γ~4, I=60eV)

$$dE = 4\pi r_e^2 dx N_e \times \frac{mc^2}{\beta^2} \ln \frac{b_{max}}{b_{min}} \qquad b_{max} = \frac{\pi \hbar c \beta \gamma}{I}$$
$$dE = 4\pi r_e^2 dx N_e \times \frac{mc^2}{\beta^2} \ln \frac{\pi \hbar c \beta^3 \gamma^2}{I r_e z} \qquad b_{min} = \frac{r_e z}{\beta^2 \gamma}$$

$$dE/dX = \frac{dE}{\rho dx} = 4\pi r_e^2 \frac{N_e}{\rho} \times \frac{mc^2}{\beta^2} \ln \frac{\pi \hbar c \beta^3 \gamma^2}{Ir_e z}$$
$$= 4\pi r_e^2 N_A \frac{Z}{A} \times \frac{mc^2}{\beta^2} \ln \frac{\pi \hbar c \beta^3 \gamma^2}{Ir_e z}$$
$$\sim 3 \text{MeV}/(\text{g/cm}^2)$$



dE/dXのご利益

- 日夜降り注いている宇宙線による被曝、計算できる。
- ・検出器の挙動の基礎
- ・ 運動量測定+dE/dX -> 粒子識別にも使える。



Fig. 9. Truncated mean (a) for tracks in multihadronic events and dimuon events as a function of the particle momentum, (b)-(d) for tracks in multihadronic events in the momentum ranges 0.4-0.8, 2.5-4.0, and 6.3-10 GeV/c, respectively, and (e) for muons with momentum of $\frac{3}{4}$ GeV/c.

電子を入射すると?

・原子核が強くキック-> 電場が引き剥がされる-> 放射



制動放射も起こす

- 単位長さの放射エネルギーは、自分のエネルギーに比例
 する。
 - ・最大自分のエネルギーをすべて放射





Radiation length $1/X_0 = 4\alpha r_e^2 \frac{Z^2}{A} N_A$ (cm2/g) 断面積:1/X0 面積次元: r_e²

പാ

α:3乗

核電荷:Z²

核密度: *ρ* / A x N_A



	X0 (cm)	Ec (MeV)	λI (cm)
プラスチック	43	94	79
Csl	1.86	11	38
Fe	1.8	21	16.8
Pb	0.56	7.4	17.6

Fluctuation

- ・ dE/dXは平均
- Event by eventでのfluctuationはどうだろうか?
 - ・エネルギー損失
 - 通過位置

運動量キック





確率分布は?
・ bの確率 ∝ b
$$\Delta E(b) = \frac{10^{-5} (\text{MeV nm}^2)}{b^2}$$

ΔEの確率 ∝ | 1/(dF(b)/db) |





たとえば、常に1000 電子が関与/event



原子核もいるよね?

- エネルギー損失: ∝ 1/M -> 効かない
- ・そのかわり、入射粒子がキックされる。(弾性散乱)



どのくらい広がる?

$$\theta \sim \frac{\Delta p}{p} = \alpha Z \frac{2\hbar c}{bp\beta}$$

 $< \theta^2 >= \frac{\int \theta(b)^2 2\pi b db}{\int 2\pi b db} \times N_{collision}$
 $N_{collision} = \pi b_{max}^2 \times \frac{\rho}{A} N_A$
 $\Lambda_{collision} = \pi b_{max}^2 \times \frac{\rho}{A} N_A$

$$<\theta^{2}>=\left(\alpha Z\frac{2\hbar c}{p\beta}\right)^{2}\times 2\pi[\ln b]\times\frac{1}{A}N_{A}X$$
$$1/X_{0}\sim 4\alpha r_{e}^{2}\frac{Z^{2}}{A}N_{A}$$

$$\theta_{RMS} = \frac{2\alpha\hbar c}{r_e} \frac{1}{p\beta} \times \sqrt{\frac{2\pi[\ln b]}{4\alpha}} \sqrt{\frac{X}{X_0}}$$
$$\frac{2 \cdot 200 \text{MeV fm}}{137 \cdot 3 \text{fm}} \sqrt{\frac{6 \cdot 4 \cdot 137}{4}}$$

28 MeV

$$d\theta^{2} = d\theta_{x}^{2} + d\theta_{y}^{2}$$

$$dy^{2}$$

$$\theta_{x}^{RMS} = \frac{1}{\sqrt{2}}\theta_{RMS}$$

$$\theta_x^{RMS} \sim \frac{20(\text{MeV})}{p\beta} \times \sqrt{\frac{X}{X_0}}$$

20GeV/c proton 1Xoで、0.001rad

だいたいPDGと同じ

$$\theta_0 = \frac{13.6 \text{ MeV}}{\beta c p} z \sqrt{x/X_0} \left[1 + 0.038 \ln(x/X_0) \right].$$

Multiple scattering

- ・荷電粒子の飛跡に悪影響
 - ・特に低運動量 -> 物質量軽減の戦い
 - 荷電粒子トラックを選びだす
 - 磁場での曲がり -> 運動量測定
 - ・検出器の位置分解能の評価

原子の分極:原子核と電子

- ・媒質効果
 - ・分極して、荷電粒子の作る電場を遮蔽 (Density effect)



Density effect



原子の分極:チェレンコフ放射

- ・媒質効果
 - ・誘電率 -> 電場の変動を緩和 -> 物質中の光速に遅れ
 - ・荷電粒子が物質中の光速を超えると




Cherenkov radiation

- ・高速粒子を選択可能
- アクリル、石英、水、エアロゲル、ガスなどの媒質
 - ・紫外よりの光をより出しやすい。





• 99.5% gamma efficiency, 1% neutron efficiency





・アクリルチェレンコフ + 全反射







・ Super Kamiokande 水チェレンコフ





• Belle II TOP Counter : Quartz Cherenkov



• OPAL lead glass calorimeter -> N62 LAV







脉

- ・ 中性粒子:荷電粒子に変換
- y線
 - 光電効果
 - ・コンプトン効果
 - 対生成
 - 光核反応





- γ線 -> 電子(~Eγ)
- Z依存が大きい Z⁻⁵
 - ・C:~10keVくらいから
 - Pb:~1MeV
- ・殻の効果





γ線 -> ~自由電子 -> 電
子+γ



- 角度とEyの相関
- ・ Zに比例



- MeV y線の偏光測定
- ・ 光電吸収ピークに漏れこ む。





対生成

- ・High energyの領域でのみ断面積がX0で決まる。
- ・Z²に比例,X0よりちょっと長い





• Shower max = $\ln(E/Ec) + 0.5(\gamma)$ or -0.5(e)



信号の取り出し方

- ・ 荷電粒子 -> 検出器(物質)にエネルギー
 - ・ 分子、原子の励起、イオン化、など にばらまく
- ・たくさんの励起子に変換して、その数を数える。
 - ・ 励起状態 -> 脱励起 -> シンチレーション光 (赤外、可視光、紫外光)
 - ・電子、イオン対
 - ・電子、ホール対
 - クーパーペアのブレイク、フォノン、泡、蒸気、AgBrの感光、DNAの損傷、

光

- ・世の中、光は身近(我々が感じることができる)
- 高感度センサーがある
 - ・ 光 -> 光電子 (ここでも中性 -> 荷電)
 - PMT
 - ・光を電子、ホールペア
 - Photo diode, Avalanche PD, SiPM(MPPC)
 - ・ CMOS, CCDなど



- 結晶シンチレータ(脱励起のdecay time)
 - NaI, CsI, GSO, PbWO4, LaBr,
- ・樹脂シンチレータ(脱励起のdecay time)
 - ・透明基材(励起) -> 蛍光剤(可視光レベルヘ)
- ・チェレンコフ(瞬間的)
 - ・アクリル、石英、エアロゲル、ガス、

励起をつくるエネルギー損失

- NaI(Tl) : 25eV
- ・プラスチックシンチレータ:100eV
- Undoped CsI: 500eV
- PbWO4:6000eV
- エアロゲル:5cm厚MIPで30photonくらい
 - (PMTなど条件次第)



PMT

- ・家電製品なみの使いやすさ
- ・ Single photon検出可能な高いS/N
- ・ 光(a few eV) -> 光電効果(QE) -> 光電子
- Dynode(アルカリ金属) -> 2次電子放出で増倍















ベースも大事





Copyright C Hamamatsu Photonics K.K. All Rights Reserved.













2-2] MPPCによるフォトンカウンティングのイメージ





KAPDC0049JA

KAPDB0133JA






















ワイヤーチェンバー
• E(r)=1/4 π r Q/ ε

$$I = dQ/dt = eE(r)v(r)/V$$

あとはr(t)の軌道がわかればよい

$$v(r) = \frac{dr}{dt} = \mu E(r)$$

$$t = \int \frac{1}{\mu} 4\pi r\epsilon_0/Q_0 = \frac{2\pi\epsilon_0}{\mu Q_0} r^2$$

$$I/t \text{ long tail}$$

$$I(t) \propto E(r)^2 \mu \propto \frac{1}{r^2} \propto \frac{1}{t}$$
79

•

Multi-wire proportional counter











移動する電子、イオンをみる電極配置





移動する電子、イオンをみる電極間の相関





・伝搬時間の相関



シンチレータ

: 位置情報 時間差 平均時間 : 粒子の通過時間

電子のドリフト時間 位置精度 10~100um

ドリフト速度:a few cm/usec



エネルギー=カロリメータ 全吸収型

- PbWO4
- CsI(Tl)
- undoped CsI
- 液体Kr
- 鉛ガラス
- ・サンプリング型
 - ・ 液体Ar/鉛
 - ・ プラスチックシンチ/鉛
 - ・ プラスチックシンチ/鉄
 - ・ プラスチックシンチ/真鍮





• KOTO pure CsI



2.5x2.5x50cm 5x5x50cm

Setup with crystal









• ATLAS liquid Ar/Pb







• CMS PbWO4





Figure 34.21: Nuclear interaction length λ_I / ρ (circles) and radiation length X_0 / ρ (+'s) in cm for the chemical elements with Z > 20 and $\lambda_I < 50$ cm.

エネルギー分解能

- 統計項(Stochastic term)
 - $\Delta E \propto \sqrt{N}$
- Constant term
 - $\Delta E \propto E$: Calibration, non uniformity
- Noise term
 - ΔE:一定

$\Delta E/E(\%) = A/\sqrt{(E(\text{GeV}))} \oplus B \oplus C/E(\text{GeV})$

	厚み (X0)	Α	B	С
KOTO pure Csl	27	2	2	
Belle CsI(TI)	16		1.7 (E>3.5GeV)	
CMS PbWO4	25	3	0.5	0.2
OPAL Lead glass	20.5	5		
KLOE Lead/Sci.	15	5.7	0.6	
ATLAS Liq.Ar/Pb	25	10	0.4	0.3
93				





- 磁場中の飛跡 -> 曲がり具合
 - 磁場
 - · 位置測定

 $P(GeV)=0.3 B(T) \rho(m)$ k=1/p

$$1/p = 1/(0.3B)k$$



 $\Delta p/p \propto \Delta k \times p$

∆k 測定位置精度/√N 多重散乱 1/p*√(X/X0)

組み合わせ

- · 飛跡検出+磁場
 - ・低物質量、強磁場
- ・電磁カロリメータ
 - ・飛跡とのマッチング -> 電子/ y 線
- ・ハドロンカロリメータ
- ・ミューオン検出器
 - ・貫通力が高い粒子







- ・物理のイメージや疑問を大切に。
- ・実験を作り、動かし、解析。